

## 春の研究例会のご案内（エスノメソドロジー・会話分析研究会）

<http://weblab.seijo.ac.jp/yminami/site05.html>（南研究室）

E-mail: [kashida@ias.tokushima-u.ac.jp](mailto:kashida@ias.tokushima-u.ac.jp)（榎田研究室）

エスノメソドロジー・会話分析研究会（略称：EMCA研）では、毎年春に研究例会を、開催しています。今年は、3月6日（月）、7日（火）の両日にわたって龍谷大学深草校舎にて行います。くわしい内容は下記の通りです。資料代（会員500円、非会員1000円）は必要ですが、予約は不要です。どなた様も奮ってご参加下さい。なお、事前登録は義務ではありませんが、ワークショップを充実したものにするために、参加者情報を集めたく思います。以下の5項目を順番に記した電子メールを、3月4日正午までに榎田（[kashida@ias.tokushima-u.ac.jp](mailto:kashida@ias.tokushima-u.ac.jp)）まで、件名「リサーチ・メソッドワークショップ参加希望」としてご送信下さい。ご送信頂いた内容は、森田氏に転送いたします。送信をして頂きたい5項目（1）氏名、（2）所属、（3）リサーチワークショップに求めるもの、（4）現在調査しているフィールド＝なるべく具体的に＝、（5）分析に用いている方法論、です。

## 1. 日程と会場

日程：2006年3月6日（月）（13:00～17:30）・7日（火）（9:00～12:30）

会場：龍谷大学深草校舎5号館502教室（下記WWWサイトに地域&構内地図あり）

（<http://www.ryukoku.ac.jp/web/map/fukakusa.html>、京都市伏見区深草塚本町67）

地下鉄「京都」駅から竹田方面へ「くいな橋」駅下車、東へ徒歩約7分

JR「京都」駅から奈良方面へ「稻荷」駅下車、南西へ徒歩約8分

京阪「四条」駅から淀屋橋方面へ「深草」駅下車、西へ徒歩約3分

## 2. 企画の紹介（敬称略）

コーディネーター（研究例会担当世話人）：

榎田美雄（徳島大学）・秋葉昌樹（龍谷大学）・五十嵐素子（光陵女子短期大学）

初日：3月6日（月） 午後（12:30から受付開始、13:00～17:30、プログラムは末尾）

リサーチ・メソッド ワークショップ

『アーバン・エスノグラフィー：在日ブラジル人児童の事例研究から』

プレゼンターのプロフィール：

**森田 京子 Kyoko Morita, Ph.D.**

ペンシルベニア大学大学院修了 教育人類学博士

University of Pennsylvania, Graduate School of Education, Philadelphia PA, USA

Ph.D. in Educational Anthropology, 2002

修士課程で社会言語学、異文化コミュニケーション等を学んだ後、博士課程でフレデリック・エリクソン博士の指導の下、アーバン・エスノグラフィーの訓練と論文指導を受ける。専門は教育人類学と社会人類学で、主に日本社会のエスニック・マイノリティーを研究している。特に、定住マイノリティーのエスニシティ、アイデンティティ、文化適応プロセスに関心がある。現在、単著のエスノグラフィー（2006年前半、新曜社より刊行予定）を執筆中。2006年4月から、青山学院大学大学院（「エスノグラフィック・メソッド入門」）等で非常勤講師を務める。

趣旨と内容：

前半は、森田京子氏によるエスノグラフィー・ワークショップとして、エスノグラフィーとは何か、どのようにフィールドワークをするのか、入手した情報をどう扱ったらよいのかの三点を中心に、アーバン・エスノグラフィー（都市民族誌学）を概略的に説明する。具体的には、エスノグラフィーの特長と制約、調査・分析での留意点、現代のエスノグラフィーに特徴的なマイクロ分析とマクロ的視点との融合までを解説する。方法論の

概念にとどまらず、長野県の公立小学校でフィールドワークをした経験に基づき、具体的な事例を盛り込んで実践的な解説に努める。また、このような調査研究アプローチによって何ができてきたかを、在日ブラジル人児童の事例研究から発表する予定である。

後半は、コーディネーター担当世話人の五十嵐がコメンテーターとして「研究計画の立て方」から「現場へのフィードバック」まで、エスノメソドロジーの立場から論点を提出して、フロアをも交えた形で議論をする予定。

2 日目：3月7日(火) 午前(8:30 から受付開始、9:00～12:30、プログラムは末尾)

テーマ：エスノメソドロジーの応用可能性の検討 = 工学の場合、教育学の場合 =

趣旨と内容：

前半は工学系の応用可能性を検討する。山崎敬一(埼玉大学) & 葛岡英明(筑波大学)のお二人からのプレゼンテーションをうけて、垂水浩幸(香川大学)からのコメントを元に議論を行うこととしている。

後半は教育学系の応用可能性を検討する。秋葉昌樹氏チーム(龍谷大学教員および学生)による演劇的教育学研究の実践報告をうけて、松本健義(上越教育大学)からのコメントを元に議論を行う。

最後に総括的議論を行う。エスノメソドロジーの可能性を拡げる研究会にしていきたい。

### 3 . プログラム(変更時には、<http://weblab.seijo.ac.jp/yminami/site05.html>にて表示)

初日：3月6日(月) 午後(12:30 から受付開始、13:00～17:30)

12:30.....受け付け開始(資料代の集金と資料の配付)

13:00.....挨拶(担当世話人)

13:05.....リサーチ・ワークショップ「アーバン・エスノグラフィー：在日ブラジル人児童の事例研究から」

(森田京子)(発表85分)：冒頭に参加者からの自己紹介を行う可能性あり。

14:30.....会場参加者からの質問とそれへの応答(20分)

14:50.....休憩(20分)

15:10.....コメンテーターからのコメント - エスノメソドロジーとの比較を中心として - (五十嵐素子)

・研究計画の立て方、現場へのアクセスの仕方、参与観察の仕方、帰納的分析の手順、

ジャーナリスティックなアプローチとの違い、現場へのフィードバック等々(15分)

15:25.....報告者からの回答(第二報告に相当)(45分)

16:10.....会場参加者からの質問とそれへの応答(20分)

16:30.....総括(五十嵐)(10分)

16:40.....近況報告(全参加者、一人1分程度)

17:10.....事務連絡(明朝の予定、教育マテリアル収集への協力依頼、秋の企画の打診・提案募集)

17:30.....初日終了予定時刻

2 日目：3月7日(火) 午前(8:30 から受付開始、9:00～12:30)

共通演題：エスノメソドロジーの応用可能性の検討 = 工学の場合、教育学の場合 =

8:30.....受け付け開始(資料代の集金と資料の配付)

9:00.....挨拶(担当世話人)

9:05.....第一報告：(発表60分、会場質疑5分)工学の場合(山崎敬一・葛岡英明)

10:10.....コメント(10分)垂水浩幸(愛媛大学)

10:20.....討論

10:40.....休憩

10:50.....第二報告：(発表60分、会場質疑5分)教育学の場合(秋葉 昌樹チーム)

11:55.....コメント(10分)松本 健義(上越教育大学)

12:05.....討論

12:25.....総括(司会)

12:30.....二日目終了予定時刻